

アジア・オセアニア 豆 知 識



テクノロジー株が アジア・オセアニア株式市場の新たな主役に

これまでアジア・オセアニア株式市場で相場上昇時の主導的役割を演じていたのは、域内の巨大金融機関でした。しかしながら、時代は変わったのかもしれない。現在、その役割を演じているのが「テクノロジー株」です。ソフトバンクグループによる10兆円規模の投資ファンド「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」の出現などもあり、アジアのテクノロジー株は目が離せないセクターといえそうです。

「真のゴールドラッシュが始まる」

ソフトバンクグループは2017年5月、サウジアラビアなどと共同で、10兆円規模の投資ファンド「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」を発足させました。同ファンドは世界のIT（情報技術）関連ベンチャー企業への投資を目的としたもので、10月には第2弾の設立構想も明らかとなっています。

ファンドの主な投資先はIoT、ロボット、AI、Eコマース、フィンテック、医療などの領域で、地域としては、中国、インド、米国の企業が多くなっています。ソフトバンクグループの孫社長は「真のゴールドラッシュが始まる」と、IT産業に押し寄せる技術革新の波を表現しています。アジアでの有力企業発掘で実績を残している同社長は、今後もアジア向け投資を加速させるとみられています。

新たな主役に躍り出たアジアのテクノロジー株

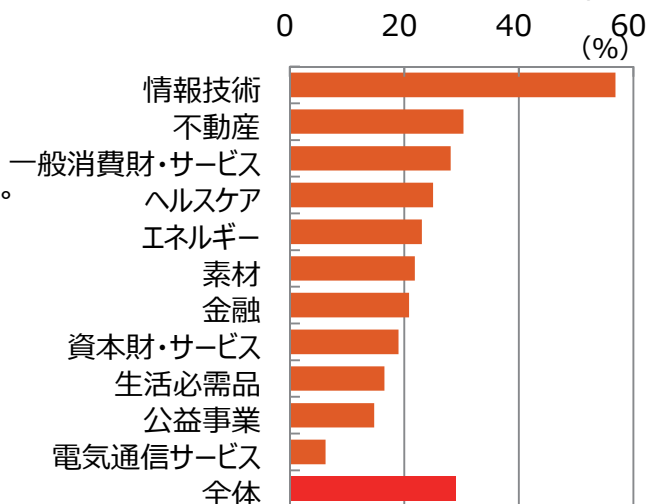
アジア・オセアニア株式市場では、これまで相場上昇時に主導的役割を演じていたのは、域内の巨大金融機関でした。しかしながら、アジア・オセアニア（除く日本）の代表的な株価指数*は、年初から30%近く上昇する中、情報技術セクターが約57%の上昇となっており、テクノロジー株が新たな主役に躍り出ています。

また、情報技術セクターの向こう1年の1株当たり利益は37.7%増（2017年10月末現在）と予想されており、引き続き、目が離せない成長セクターであるといえそうです。

アジアにおいて、テクノロジーとサービス産業の育成を図るなどの動きがある中、巨額なファンドの登場によって、ハイテク産業に「アジア」という新たな基軸が生まれることが期待されます。

＜アジア・オセアニア株式*の業種別騰落率＞

2017年10月末（対2016年12月末比）



*指数はMSCI AC アジア・パシフィック指数（除く日本）円ベース

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。（出所）FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。